

奥多摩：雲取山 テント泊山行

◆日程 2018年11月10日(土)～11日(日)

◆メンバー L：須田(健)、曲、松田、横岩、今

日帰りより泊りの方が山の楽しみが倍加する。小屋泊りよりテント泊の方が自然に近づく事ができる。それには経験とノウハウが必要となる。未経験の方にもテント泊りの楽しさを体験して頂こうと計画した山行である。テント経験ずみの曲さんを含み、初テント山行の今さん、松田さん、山の会初山行の横岩さんの5名のパーティとなった。今回の報告は3名の方に個別に報告を書いて貰った。(記：須田)



11月10日(土) 天候：晴れ

CT：奥多摩駅：9:30 - 鴨沢 10:20 - 奥多摩小屋 14:30

11月11日(日) 天候：晴れ

CT：奥多摩小屋 6:00 - 雲取山山頂 7:10 - 奥多摩小屋 8:00/8:40 - 七ツ石山 10:20
- 鴨沢 12:00 - 奥多摩駅 13:00

雲取山テント山行に参加させていただきました。山では小屋泊りしかしたことがなく、テント泊は初めての体験です。奥多摩駅は紅葉シーズンと好天もあいまって、すごい人・・・。バスもかなりの増便体制です。我々も多少のトラブルもありながら、鴨沢登山口から登り始めました。2年ほど前、ソロで日帰り登山(夏)をした雲取でしたが、秋は雰囲気ガラッと変わっていました。紅葉が素晴らしく、登山道は落ち葉に覆われて「カサカサ、サラサラ」と心地良い音を立てます。奥多摩駅では日差しが強くて暑いくらいでしたが、長く続く林の中の登山道は、ヒンヤリ涼しく、とても気持ちの良い登山となりました。

そして奥多摩小屋に到着し、テントの設営です。須田リーダーからテキパキと手順を説明いただき、テントが完成。テントは薄い布ではありながら、安心感、落ち着きを与えてくれるものなのだ・・と感じ、とても快適に感じました。

松田さん作のほうとう鍋、そしてトランプ大会と過ごし、就寝時間。ここで思わぬ失態、ところがなんと敷きマットがパンクして空気が入らないことが発覚し、多少寝心地が悪いくらいかな・・とと思っていましたが、背中からの冷氣と闘いながらの就寝となってしまいました。

日頃から用具の維持、検査は不可欠であることを改めて思い知らされ、地図忘れと合わせて今回の山行の大きな反省点となりました。

横岩さん作の朝ラーメンで眼を覚まし、山頂へ。山頂は残念ながらガスっていて眺望はありませんでしたが、登頂を果たし、テント撤収、帰りは往路に行かなかった七ツ石山に登り、全員無事に下山いたしました。

奥多摩駅 2階のカフェで飲んだ生ビールが格別でした。秋の好天をととても充実した2日間とすることができました。今後も積極的にテント泊山行をして行きたいと考えています。

(記：今)

これまで日帰り登山しか経験したことがない私が、初めてテント泊山行をする機会を頂きました。何を準備したらいいのか、夜はどのくらい冷えるのか。わからないことが多い上に、夕食担当という重大な役を任せられ、四六時中装備のことばかり考えて過ごしていました。いつもの登山ではせいぜい5キロほどの荷物でしたが、今回はテント泊装備や5人分の夕飯食材があり、当日のザック重量は11キロを超え、不安な気持ちのまま家を出ました。

爽やかな青空と奥多摩湖の紅葉に迎えられ、意気揚々とスタートしました。登り始めは順調でしたが、ザックの重量が次第に体力を奪い、足取りが重くなって行きました。こんなにも歩くのがキツイと思ったのは初めてのことでした。予定を変更して奥多摩小屋でテントを張ることに決まった時は、正直ホッとしました。

テント内は想像以上に暖かく快適でしたが、ほとんど眠れませんでした。シュラフやマットの準備・片付けは、自宅で練習しましたが、テント内ではもたついてしまい、須田さんに「何を遊んでいるの？」と笑われてしまいました。

翌日は最低限の荷物で山頂へ行き、無事に登頂できて安堵しました。帰りはほぼ下りの山行だったので、気楽に歩けました。曇りがちで眺望はほとんどありませんでしたが、貴重なテント泊が体験できて良かったです。重い荷物を背負って歩く力がまだまだ足りないことを思い知らされました。来年の縦走に向けて、もっと体力をつけたいと思います。(記：松田)

入会して初めて山行に参加しました。初めてなのに遅刻してしまっすみません。重たい荷物にもまだ慣れることが出来ず、睡眠不足で眠気と闘いながらの山行でしたが、とても楽しかったです。雪山に向けてランニングを再開して体力づくりをしようと思いました。リーダー、皆様ありがとうございました。また次回もよろしくお願ひします。(記：横岩)

